

— *This is The* —

*Saijo  
sway*

*From  
Saijo City  
Ehime*

私たちは、西条市で新たな産業づくりにチャレンジする  
集団です。Next Commons Lab (ネクストコモンズラボ、以下  
NCL) 西条のメンバーとして、西条市でのプロジェクトコ  
ンセプト「人間らしさを源泉とした産業創造」に共感し、  
2018年から現在までで13人が移住してきています。

私たちの目標は、ここを「挑戦者の聖地」とすること。  
住みたい田舎としても知られるようになった西条市に、  
地方で何かやりたいと思う人、このまちを出て行った  
若者など、それぞれが挑戦する環境をつくる。そうす



# チャレンジャーの

ることで、ここをよりよいまちとして後世に残したい  
です。そして、このような挑戦のスタイルを“SAIJO  
WAY”として掲げ、地元の皆さんと一丸となってチャレ  
ンジし、新しい産業=新しい仕事を生みだしていきます。

この冊子では一人ひとりの起業家に焦点を当て、こ  
れまでの活動報告や今後の展望をお伝えします。  
挑戦が挑戦を呼び、まちじゅうに広がっていく。  
チャレンジがつながり、西条市のシンボルの清らかな水  
のように、広い世界を循環することを目指して。



# 生態系をつくる。



# 数字で見る SAIJO WAY 2019-2020

最初のメンバーが着任してからまる2年。これまでに関わりを持った人  
たちや売上など、数字を通して振り返ります。今後は各起業家の動きがよ  
り本格化。大きな成果を出せるよう、挑戦します！

## 33

のメディア  
掲載実績



2018年のコーディネーター着任以降、地  
元紙・TV・雑誌やWEBメディアに活動  
の様子が取り上げられ、事業を知って  
いただくきっかけに。西条市のブラン  
ド力向上に貢献できているかもし  
れません。例：愛媛新聞、地域のフリーペー  
パー、TURNS、田舎暮らしの本

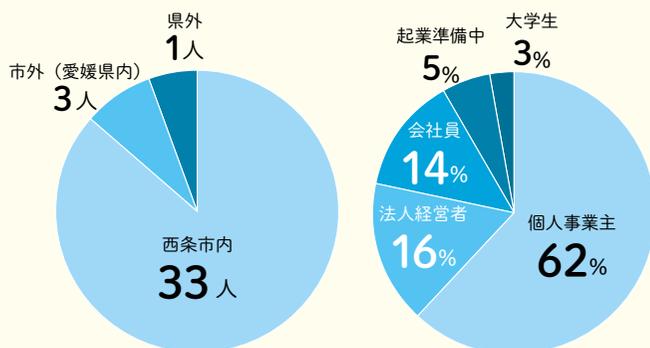


## 37

人がワーキング  
スペースの会員に



2019年1月開所のワーキングスペース 紺屋町 dein (デイン) には学生  
や会社員、個人事業主など平均して月に3人が入会。仕事や情報交換の場  
として活用されています。毎月開催のイベントには一般の地域の方も参加。  
ぜひお気軽に、覗いてみてください。



## 13

人が起業家  
として西条  
市に移住

2018年3月～2019年11月の期間で13人  
が移住。家族を含めると18人に上ります。  
縁もゆかりもなかった「移住者」もいれば、  
新居浜、松山など近隣出身者の「Jターン」、  
帰郷した「Uターン」も。募集段階でのエン  
トリーは計34人で、こちら、西条市を知っ  
てもらった機会となりました。

## 3

つの拠点を  
新たに開設

事業を展開していくため  
に、事務所やスペースなど  
の拠点機能は重要な役割を  
担います。

これまでにできたのは、先  
述の「紺屋町 dein」と、田  
村による「さとらいふの  
事務所」、篠原によるベト  
ナム・ダナンの「日越産  
業連携プラットフォーム  
(XIUcafe Viet-Nhat)」。現  
在整備中のもも複数あり、2020年度にはさらに  
拠点数が増え、地域との接点も増えていきます。



## 43

の地元企業・団体と  
ともに事業を行う

相談、打ち合わせや仕入れに留まらず、  
ともに事業を行うなど、協力者として  
深く関わっていただいている企業・団  
体様の数です。  
協力者の皆さんからは、この後の起業  
家紹介のページにもメッセージを寄せ  
られているので、ぜひご一読を。



## 735

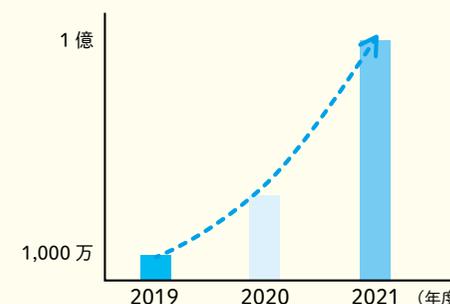
人をイベント  
に動員

NCL 西条の活動報告会、紺屋町 dein  
での定期イベント、各起業家主催のイ  
ベントや勉強会などへの参加者を通算  
すると735人。

これからも、市内外の人同士の出会い・  
学びなど、さまざまな場を創出してい  
きます。

## 1,000

万円の  
売上計上  
(2019年度)



事業開始1年目、今年3月末時点  
での数字がこちらです。2年後は  
「2021年単年度※の売上1億円」  
が目標。最初のメンバー着任当初  
から目指す数字です。事業内容  
により各自売上規模は変わりますが、  
今年度は個々が確実に売上数字  
を出すことを目指しています。  
※ 2021.4～2022.3末時点

# index: 私たちの事業

11人の起業家と、彼らを支援する2人のコーディネーターの13人がメンバーの全体像。事業の内容は実に様々ですが、西条市の豊かな地域資源を活かし、地域とタッグを組んで事業を展開しています。



この豊かな自然環境を  
守り楽しみつづけていく

上田 公彦 p8



開発から販売まで  
食をトータルプロデュース

長尾 愛里 p10



モノづくりを通じて  
アウトドアをもっと楽しく

仙石 一大 p12



残したい伝えたい、  
地域の魅力を形に変える

山中 裕加 p14



テーマは健康。  
この地の癒しの力を信じて

古賀 あつみ p16



一次産業×ITで  
流通と消費を変革する

山中 康裕 p18



限界集落に  
眠る資源を活かす

田村 裕太郎 p20



“会いに行く”ツーリズムを  
地域と具現化

大須賀 一仁 p22



合言葉は「ZEN」。  
ありがとうが繋ぐまちづくりをともに

鈴木 直之 p24



楽しい農と美味しい食を  
農家さんと届ける

野口 あすか p26



境界はない。  
地方と世界を繋ぎ、ビジネスの可能性を拡張

篠原 学 p28



コーディネーター  
起業家をサポートしながら  
自らもチャレンジを实践

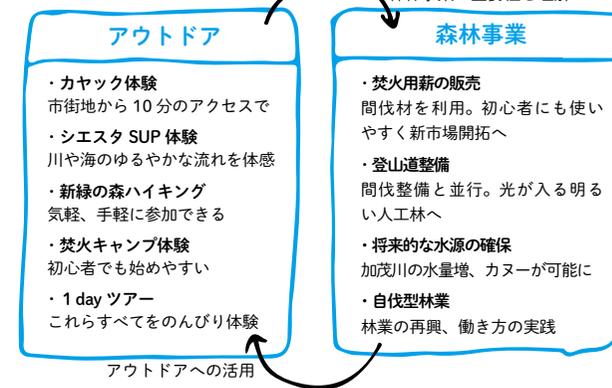
(左から) 安形 真、高田 裕明

コーディネーター対談は p30



# この豊かな自然環境を 守り楽しみつづけていく

西条アウトドアサービスという屋号で、西条市内の豊かな自然資源を活用し、カヤックやサップ、トレッキングなどアウトドア体験をつくる仕事をしています。



業の方では、西条自然学校の山本貴仁さん達と、放置森林を伐採し多様性豊かな森に還すグループを立ち上げました。この活動を通じてゆくゆくは水の保全や土砂災害対策に、そしてその知識や技術を活用して将来的に登山道の整備やハイキングコー

2019年度は、主に西条市内のフィールドを調査しました。自然相手に仕事をする時に大切なのは、地域の天候や環境のおおまかなクセをつかむこと。例えば、それぞれの季節の雨・風・気温や水温。台風や大雨が森や川や海に及ぼす影響、季節によって見られる山の花や植生の違いなど。森に太陽の光が射し込む時間を見越せば、樹々の様々な表情の変化を楽しめます。水辺では、川の水位が10センチ違うだけで遊び方が変わります。そ

れらを踏まえ、安全に楽しんでいただけるイベントを企画運営します。加茂川中流域や河口でのカヤックやSUP体験会の際には、「西条市にこんな場所があるの?」「こんな体験ができるの?」など好評の声をいただきました。

2020年度は、これらの体験会やツアーを本格的に始動し、市内外を問わず様々なお客様にこのまちな自然の魅力を伝えていきます。また、もう一つの森林事

業の方では、西条自然学校の山本貴仁さん達と、放置森林を伐採し多様性豊かな森に還すグループを立ち上げました。この活動を通じてゆくゆくは水の保全や土砂災害対策に、そしてその知識や技術を活用して将来的に登山道の整備やハイキングコー

スづくりなどにもつなげていきたいです。また、間伐した針葉樹の端材を活用した、初心者の方でも扱いやすい焚火専用の薪の販売も開始します。ここにはせっかく豊かな自然がありますが、まだまだ楽しめる伸び代も残っています。焚火のゆらぐ炎や流麗な水を見ることや、新緑の緑を歩き自然を感じることに由来するリラックス体験を、もっと西条市でできるようにしていきます。

きみひこ  
**上田 公彦** 2019.3 着任

熊本県天草市出身。大阪のアウトドア店で働きながら紀伊半島を拠点にトレッキングとカヤックのガイドとして活動。そのエリアにあった山・川・海の自然環境がひとつの街に詰まった西条市に魅力を感じて移住を決断。  
<https://reserva.be/saijooutdoorservice>



(左上) 川の水に足を浸しながら滝を眺めるひととき (右上) 山本氏らと放置人工林を伐採・活用するチーム (右下) 燧灘でのカヤック & SUP 体験会



応援者コメント



西条自然学校  
山本 貴仁 さん

西条市は海から山まで多種多様な自然環境に恵まれながら、今までそれを気軽に体験するための仕組みがほとんどありませんでした。上田さんの取り組みによって、この地域での自然を楽しむ幅が広がることが期待しています。

あいり  
長尾 愛里 2018.9 着任

岡山県出身。東京の大学を卒業後、「地方」と「食」に興味を持ち、地方自治体とともに地域産品の販路開拓などを行う仕事を経験。よりリアルな現場に飛び込むべく、地方移住を決心。2018年初夏にこの募集を知り、西条市への移住を決める。

私の日々の仕事の半分は、個人で請け負っている食品コンサルティング業務、残り半分は西条に事務所を構える「株式会社キッチンエヌ」の代表・中村新先生に師事し、様々な食を作り出す現場を共にすることです。

前者は、メーカーや販売店や飲食店、農家に対する経営コンサルティングや商品開発、販路開拓、主に首都圏等に向けた西条市産品の卸事業。西条市を中心に県内の様々な方と事業を行う中で地方の食のリアルを体感し、日々発見と勉強の連続です。個人でコンサル業を請け負うのは西条市へ来てからの挑戦。厳しさや難しさと同時に、今まで得たことのない大きなやりがいも感じています。西条市の新た

な食の魅力を掘り起こせるよう、今後も尽力します。

また、後者では、地方自治体や大手メーカーでの商品開発事業の現場を主に一緒にさせていただいています。中村先生は知識も経験もずば抜けて豊富なので、同じ現場にいただけで、圧倒的な量と質の生きた学びを得られます。これらを自分の事業に還元できるよう、今後も学びを重ねます。

2019年度の売上は約100万円の見込みでほぼ目標通りですが、さらに売上増となるよう精力的に活動していきます。

また、2020年度には株式会社キッチンエヌが食関連のプロデュースを行う「糸プロジェクト」のマルシェの売場がオーブ

ン予定。この売場の一部の商品選定・売場づくりに参画し、魅力的な売場になるよう試行錯誤を重ねています。私自身の任期も、折り返し地点。本格的にお金の動きが出てくる局面に移行します。他の食品コンサルティング業務も同時並行で行い、「食のことなら長尾さんに」と言ってもらえるような、食のトータルプロデュースができる存在を目指します。



# 開発から販売まで 食をトータルプロデュース



コンサル  
ティング



小売店・飲食店・  
メーカー・農家

卸



個人ではcuddle (カドル) という屋号で活動。寄り添う、伴走者という意味がある。



(左上)みかん農家さんへのヒアリング  
(右上・左下)新商品・新メニュー開発ワークショップ。様々な人たちが同じ目線で意見を出し合い、より良いものを作る

応援者コメント



(株)キッチンエヌ  
代表取締役 中村 新さん

地域商社としての立ち位置を築くための1年が過ぎました。長尾さんの、何事にも興味を示し、果敢に取組む姿勢は良いと思います。今後は、生産者の方々の心に寄り添うモノづくり支援を期待しています。

僕の目標は、クライミングを中心とした専門的アウトドアアイテムのメーカーを作る事です。現在は、以前開発したクライミング用ソックス「クライミングソックス」の販売、新しいアイテムのデザイン、テスト、生産工場の手配などのメーカー業務を行っています。そのビジネスに最適な地がここ西条市でした。販売のためには、数年前から主流になっているインフルエンサーの協力を仰いだ SNS・YouTube とクラウドファンディングによる相乗広告を活用。市

場調査を行い、経費の効果的な運用と経営のリスクマネジメントを行っています。

西条市での活動は順調で、港湾部に位置する大手繊維会社に特殊な繊維のサンプルを提供していただけるなど、願ったり叶ったりの状況です。

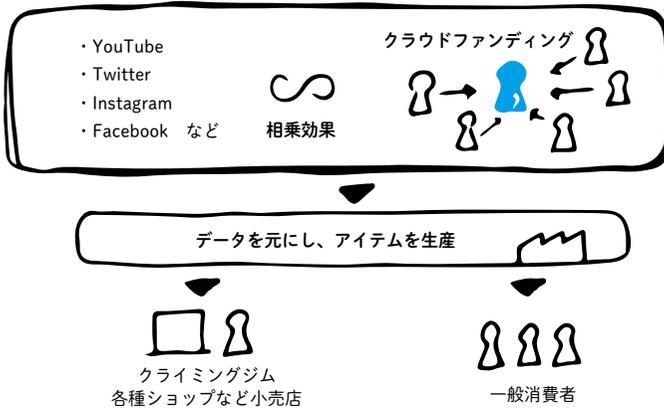
成果に関して、今期はクラウドファンディングで資金調達目標の300%越えを達成したものの、生産国側の商社の都合で生産などが遅れてしまい、売上目標1000万円に対して200万円（見

込み）と、20%の達成率となってしまいました。しかし、生産を国外にしている以上、トラブルは付き物。冷静に対処を行い、ユーザーの課題解決ができ、さらに楽しんでもらえるアイテムを生産していきます。

2020年度の目標は、メーカーとして基盤となるソックスを2種類、さらに下着・衣料の計4種類の販売を開始すること。生産開発のスピードを可能な限り上げ、先に予定しているアイテム開発も前倒しで行い、目先の売り上げだけでなく世の中のアウトドアをもっと楽しめるアイテムを生産していきたいと考えています。「この頭はなかった!」と、ユーザーや他のメーカーにすら面白がってもらえるものを、世に出していきたいですね。

SNS、動画媒体での広告

新規性の訴求、広告、市場調査



YouTube チャンネル  
インフィニティピークス  
「INFINITY PEAKS」

応援者コメント



(株)コンライブ  
東 建宏 さん

仙石さんとは販売員時代から20年来の友人で、シューズ・雑貨の製造を行う当社で現在クライミングスキンの製造を請負っています。ビジネスパートナーとして、製造・開発分野で様々な事にチャレンジしたいと考えています。



(左上) ソックスのデザインデータ (右上) 現在開発中の高機能ボクサーパンツ (左下) クライミングパーク西条にてソックスのサンプルテスト中

# モノづくりを通じて アウトドアをもっと楽しく

せんごく いつひろ  
仙石 一大 2019.2 着任

山口・東京でクライミングソックスの生産販売を行う。製品のテスト・生産等のよりよい拠点を探していたところ、山・海・クライミング施設が近く、大手繊維企業があり、生活圏に雪が積もらない稀有な条件を満たす西条市の募集を知り、移住。

「消滅可能性都市」での移住促進事業との関わりから「なぜ地域は存続しなければならないのか／無くなってはいけないのか」という問いを持つようになり、この募集に出会い、移住し、ヒネルHinel という屋号で活動中です。



**Hinel**  
アタマをひねる、未来が変わる

現在は、中長期滞在施設の営業準備中。宿泊と飲食の複合施設で、ここに就労型中長期滞在の仕組みも取り入れ、滞在者が地域の人をもてなすなど、実際に地域に入っていくことで互いに新しい発見がある場を目指しています。

並行して、商品開発のプラットフォーム「Defending Our Locals」の立ち上げも行ってい

ます。西条市移住後に感じた自然環境・地域資源の持続可能性への課題意識から、「人工林・竹林・棚田」を商品開発のテーマとし、各テーマの現状・課題・可能性を掘り下げるメディア運営と商品の募集を行います。

これらの調査を進める中で、昨年の10月から「竹林をよくする会」という団体の活動に参加。ここで伐採・整備している放置竹林の竹材から生まれる竹パウダーに魅力を感じ、そのPRのための実験農園を西条市内に計画しています。

ほかにも、「月イチシネマ部」という名で、四国唯一の民藝館、

愛媛民藝館を貸し切った映画上映と地域産品や人を紹介するイベント「お堀のほとりで手づくりシネマ」を2020年の1月から開催しています。訪れ、聞き、味わう「実体験」を通してそれぞれに関心をもつ場にしたいですね。

来期はしっかりした土台構築の

年。色々なものが減少していく社会の中で、非効率を排除・統合していくというのは真っ当な流れです。その一方で、効率化・フラット化していった社会では、私が刺激を受けてきた各国・各地の土着の文化や伝統・慣習は失われていく。その流れを踏まえた上で、地域に必要なことは一人一人が残すものと残さない

ものの取捨選択をして行動していくことだと思っています。私の事業を通して、一人でも多くに西条の「残したい魅力」と繋がるきっかけを提供できるよう、一つずつ形にしていきたいです。



Hinel ホームページ  
<https://www.hinel-with.me/>

応援者コメント



竹林をよくする会  
前山 竹生 さん

18年目を迎えた「竹林をよくする会」に山中氏はやってきて、竹パウダーをバンバン売ると言います。リーダーが去り、目標を失っていた会員達はこれに奮い立ち、また竹パウダーを造ります。会は見事に復活しました。

## 残したい伝えたい、 地域の魅力を形に変える



(左上)「お堀のほとりで手づくりシネマ vol.02」の様子 (右上) 竹林をよくする会のメンバーと (右下) 商品開発に向けて地域の方と打ち合わせ中



山中 裕加 2019.5 着任

松山市出身。兄（山中康寛→p18）とともに、小さい頃から西条市内の祖父母の家で自然と触れ合い遊ぶ。建築デザインや、不動産の企画・運営に携わったのちに、人と人、人と地域のつながりを増やす場をデザインすべく西条市に移住。

# テーマは健康。 この地の癒しの力を信じて

私は現在、「いまこ健康生活<sup>ヘルシーライフ</sup>ラボ」を立ち上げ、「心と体の健康」をテーマに3つの事業を行っています。

1つ目は「ヘルスツーリズム事業」。西条市内のカフェや、石鎚ふれあいの里などの宿泊施設で、マインドフルに（いま・ここのあるがままの）自然を感じる体験やヨガ、瞑想を組み合わせた「マインドフルネス・リトリート」という癒しのツアーを7回実施しました。参加者からは「凝り固まったところがほぐれるような気持ち良さを感じられた」「すっきりとした温かい気持ちになった」「深く眠れ、目覚めも改善した」などの声を頂きツアーはほぼ毎回キャンセル待ちとなっています。



## 応援者コメント

まんがら農園・心理士  
野満 育郎 さん



古賀さんと、西条市をはじめ全国の方々の健康と幸せづくりをサポートする活動をスタートしました。直感&猪突猛進型のコンビ、どこに飛んでいくか分かりません（汗）。でも大きな時代の変化、大いなる宇宙の波に乗り、「いま・ここ」の魅力をお伝えしていきたいと思っています！

## 古賀 あつみ 2018.3 着任

横浜市出身。病院で作業療法士として勤務後、ニュージーランドに渡り、心と体と向き合える「リトリート」と出会う。帰国後は、リトリートを日本人に合った形にして多くの人に伝えることを目標に、自然豊かな西条市への移住を決めた。

## いまこ健康生活 Lab

- 1.ヘルスツーリズム事業
- 2.ヘルスケア研修事業
- 3.癒し場づくり事業

2つ目は「ヘルスケア研修事業」で、企業内の社員研修として、“5分で出来る疲労回復法”や“集中力UPトレーニング”などの内容で実施。研修内では「体感」を重視し、その場で実際に体を動かし変化を感じて頂きます。2019年度は約400名に実施し、アンケート結果からは「ストレスの低下」や「疲労の減少」など6項目で統計的に有意差のある効果を認められました。

3つ目の「癒し場づくり事業」では、古民家を改修した癒しの空間で、ヨガ教室や、ミュージックセラピストとコラボした健康イベント、個人カウンセリングなどを実施しています。これらの事業のビジネスプランは、愛

媛県主催のビジネスプランコンテスト「EGFアワード」で特別審査員賞を受賞しました。

今後は、より多くの方に「いまこ健康生活 Lab」のサービスを体験していただけるよう、サービスの質の向上はもちろん、バリエーションや回数を増やしていきたいと考えています。特にヘルスツーリズム事業で県外から人を呼び込むための仕組み作りを行い、多くの方に愛媛に来て、この地の癒しの力を感じていただきたいですね。そして将来的には「健康といえば愛媛」と認知されるような地域づくりに貢献したいと考えています。

いまこ健康生活 Lab  
Facebook ページ



(左上) EGFアワードビジネスプランコンテスト受賞時 (左下) 石鎚ふれあいの里での「マインドフルネス・リトリート」 (右下) 企業様でのヘルスケア研修

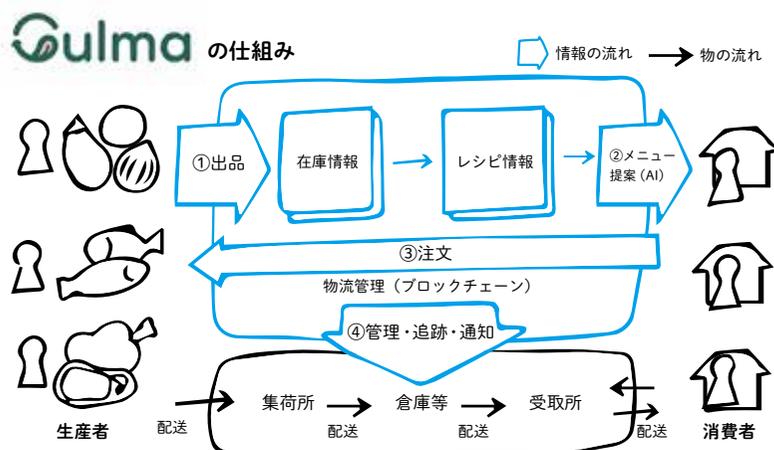


11月の着任以来様々な農家さんを訪問し、農業の現状や課題を聞かせていただく中で、現在の農業や流通・消費のあり方をより良くするためのウェブサービス「Culma.jp」の企画に至りました。現在はシステム試作段階。AIやブロックチェーン技術を使った飲食メニューの提案や流通のネットワークを使い、消費者（お客様）は手軽に美味しく健康的な食事を楽しめ、農家さんは直販による売上や利益増と消費者からの声が直に届いてやりがいを感じられ、ファンがついていくような仕組みです。消費者に流通や販売に参加してもらうことで、よりお得なサービス体験、地域や人のつながりの再編成が可能になるほか、農業や自然との触れ合いなどの体験も提案していきたいです。

まずはシステムの試作と検証を重ね、消費者や農家さんからのフィードバックを受けながら仕様を固め、本格稼働できる仕組みの構築を目指します。Culmaでは、野菜だけ

でなく魚や肉・卵・果樹など多種多様な食べ物を取り扱い、レシピの種類を充実させ、データサイエンスの手法を利用することで最適なメニューの提案を行えるようにしていきます。また、農家さんの需要を聞きながら、カメラを実装したドローンで動画や画像の撮影や配信、AIによる画像認識などもしていきたいです。自作のドローンは、GPS制御する仕組みを取り入れ、正常に飛行できることをテストで確認しました。進捗情報は随時更新のサイトをぜひご確認ください。

<https://culma.jp/>



やすひろ  
**山中 康寛** 2019.11 着任

松山市出身。西条市にある祖父母の家に子供の頃からよく遊びに来ていて、近年その家をどうするか妹（同じく起業家の山中裕加→p14）と検討していた時にNCLを知り、農業部門のプロジェクトへ応募。インドでIT分野の起業経験あり。

# 一次産業×ITで 流通と消費を変革する



(左上) 自作のドローン。カメラを搭載し、GPSで制御する (右上) 農家さんと現場で打ち合わせ (左下) 2019年11月の就任式にて西条市の玉井市長と

応援者コメント



(株) 鎌田農園  
鎌田 竹広 さん

西条市には、豊富な水資源と温暖な気候で育つ豊かな農産物があります。私は農業従事者として、康寛さんをはじめ起業家のみなさんには、西条産の農産物の魅力を全国に発信してもらう活躍を期待しています。

## 田村 裕太郎 2019.4 着任

新潟県新潟市（旧新津市）出身。大学進学と同時に上京。学生時代に日本中を旅し、新潟県粟島浦村という島を訪れ、衰退している集落を振興するような活動を志す。東京で就職後、当プロジェクトへ応募し、西条市へ移住。

# 限界集落に 眠る資源を活かす

2019年に着任以来、市内山間部大保木地区の宿泊施設「石鎚ふれあいの里」で代表の山本さんのもとで学びながら活動しています。2019年夏には合同会社「さとらいふ」を設立しました。

当社の事業は集落の資源を次世代に引き継ぎ活かしていくことが目的。まず、事業の主軸となる「石鎚ふれあいの里」の運営です。廃校を活用して約30年前

につくられた宿泊施設で、キャンプや研修などに利用されてきました。また、昔ながらの製法の炭や薪、こんにやくづくりなどの体験も販売し、集落の伝統を引き継いでいます。もともと住民中心の運営でしたが、十数年前に現代表に、そして4月からは西条自然学校と一緒に運営を開始します。この循環を繰り返していくため、文化継承の担い手が出てくる環境をつくります。

2つ目は限界集落の魅力や課題を伝えるスタディステイ。学生が滞在しながら、仕事の手伝いやヒアリングを通じて日本の集落の課題や自らのキャリアを考える研修プログラムで、僕自身の活動の原点となるものなので、大切にしたい事業です。今年2月に第1回目を実施。4名の学生が参加し地域を学び、かなりの衝撃を受けていて好感触でした。

3つ目は地域の空き家活用。急激に人口が減った大保木では、多くの空き家が放置されていますが、中には風化させるには惜しい立派なものもたくさん。それらを使いたい人と所有者をつなぐ役割を担います。現在は2軒の空き家を借り、スタディステイの滞在拠点の整備やシェア別荘プロジェクトを進めています。



(左上) 石鎚ふれあいの里の前を流れる清流 加茂川 (右上) 石鎚ふれあいの里 宿泊棟。大小様々なログが人気(左下) NPO 法人西条自然学校のメンバーと



### 応援者コメント

西条自然学校  
山本 貴仁 さん

都市への人口集中の中、日本中の地方で廃校や空き家が増えていっています。それを資源と捉え、どう活かすか。多様な価値観のなかできっと反応する人たちがいるはず。 「田村×大保木」ならではの仕組みができていく様子を、下から支えたいと思っています。

石鎚ふれあいの里  
ホームページ



これまでの経験を活かした、編集者視点の地域プロデューサーとして、「地域の魅力の掘り起こし・創出・結びつきづくり」を主題に活動中です。地域独自の特色づくりは必要ですが、「地域間競争をやっている場合ではない!」と考え、行政枠を越えた連携の橋渡し〜販売に結び付けていくことも大切にしています。

2019年8月に始めた「東予人 TOYO-JIN」プロジェクトは、2年後までの法人化が目標。気軽楽しめるアウトドアスポーツなどを中心に、観光事業の開発と、飲食店と一次産業が連携した商品づくりなど「地域総合商店」として地域資源を多角的に組み合わせる活動を展開します。西条市内に拠点を据え、地域の魅力の鍵を「人」と位置づけて、東予地域や愛媛県など地域の魅力を地元の方々と再編集し、商品開発・販売促進などを行っています。

もうじき、大阪の七味唐辛子メーカーと西条市の生産者が連携した唐辛子作りが始まります。生産した唐辛子を地元の飲食店で使ってもらうメニュー展開や、調味料商品の開発も行う「西条スパイスプロジェクト」です。関わる「人」を自転車で訪ね、その方の仕事を見て体験し人の魅力に触れられる「スパイスツアー」も始めます。

また、西条市の余剰木材を加工したまな板やカッティングボードをつくり、砥部町で復活した「伊予砥」の砥石・いの町などの土佐刃物と併せて「四国の台所商品セット」とすることで、大阪の刃物専門店での販路に結びつけることができました。ここから、アウトドアナイフ・包丁研ぎ器・カッティングボードの独自販売と、木材と砥石と刃物の生産者を巡るツアーも形になっているところ。その他、防災の分野でも、意識

啓発と防災商品開発を進めるなど、地元の資源を活かしながら、幅広く活動していきます。



東予人 TOYO-JIN  
Facebook ページ



(左上) ライフジャケット体験&清掃活動 (右上) 大阪の飲食事業者をほ場へ案内 (左下) 観光のプロのゲストを招いてトークイベントとまち歩きを開催

応援者コメント



工房オクノホソミチ  
奥涼介さん

幅広いつながりと経験を持つ大須賀さんと話すことで、自分の事業への取り組み方の整理ができました。一緒に進めるプロジェクトもいくつか始動しています。点在する地域の資源を結びつける発想・企画力を尊敬し、人との関係や現場を大切にする姿勢と行動力に共感しています。

### 大須賀 一仁 2019.3 着任

大阪は岸和田から移住。学生時代は山岳部に所属。大阪、島根、高知などで地域連携コーディネーターとして13年活動。広告会社での経験を生かし、アクティビティを軸にした観光(ツーリズム)を作る事業開発ディレクターに就任。

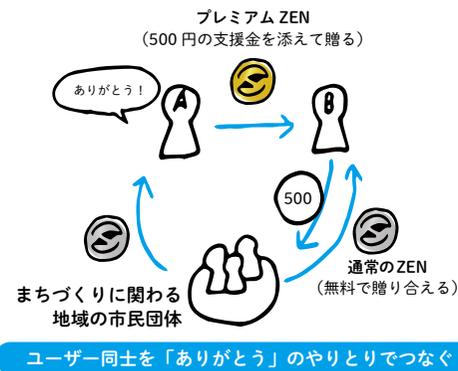
“会いに行く”ツーリズムを  
地域と具現化

#### 事業内容

- 人を訪ねるまち・里山・里海あるき
- さまざまな移動ツールで巡るまち・里山・里海体験
- 体験コンテンツを通じたものづくり連携、他地域との人と物の行き来の創出と広報・販路構築
- 関わる人・もの・場所の「あるがまま」を発信するメディア運営
- メディアを通じた「困りごと」の解決を目指すマッチング活動
- できることを結び「小さな仕事」を集める地域総合商店の運営

理念 関わる人と人の、思いと活動の  
互恵関係とが、もっとも大切なことである

拠点



僕は、地域の人たちと一緒に市民団体などの活動を支援し、新しい形のまちづくりを実践するサービス「ZEN」を企画・開発し、運営しています。

インターネットが普及し、誰でもスマホでメッセージのやりとりができる便利な世の中で、あえて「ありがとう」という感謝の気持ちを音声メッセージで送り合います。それが人と人の繋がりを新たに生み出し、そこに500円の少額寄付サービスを加えることで、個人とまちづくりに関わる市民団体との繋がりも生み出す仕組みです。

「ZEN」を通じて、利便性や効率性、損得などの判断基準とは別の価値観を地域の人々が分かち合うことで、令和の新しい時代

にふさわしいまちづくりができると考えます。去年の7月より試作版のサービスを開始し、11月からのテスト運用を経て、2月に西条市でのサービス開始イベントを開催しました。

まずは、西条市におけるZENのサービスを使ったまちづくりの実例確立が目標です。ユーザー数は116名(2020年3月末時点)から2,000人へ、登録団体(コミュニティ)は50団体を目指します。地域の方たちの善意からまちづくり団体に寄付が集まり、寄付の活用事例を共有していくことで、善意のよい循環を創出します。また、新規ユーザーと登録団体獲得のために、ZENの認知度アップやコミュニケーション促進グッズの開発と、各地での説明会・体験会の開催も進める

予定です。

これまで僕は、インターネットビジネスに軸足を置きながら、一貫してリアルな課題解決を目指してきました。新しい形での地域の課題解決に取り組みむことで、日本を変える可能性を示すべく、活動を続けます。

ZENを始めるなら  
こちらから!  
<https://ze-n.tech/>



## 鈴木 直之 2019.3 着任

大阪に生まれ、小中学生は南米ペルーで過ごす。大学院を卒業後、ベンチャー企業のIT部門の立ち上げに関わった後に独立し、2006年に大阪市内で当時流行り始めたSNSと連動したダイニングバーを開店。12年間経営した後、西条市に移住。

合言葉は「ZEN」。  
ありがとうが繋ぐ  
まちづくりをともに

(右上) 紺屋町 dein でのZEN体験会(左下) ZENアプリ画面。利用者の声を聞き随時改良を加える(右下) 西条商工会議所で行ったサービス開始イベント



## 応援者コメント



西条せとうち広告  
加藤 正法 さん

ZENの取り組みは、最初はリアリティが無いと思いましたが、徐々に鈴木さんの経験や人柄に惹かれ、参加することでまわりが見えない糸で繋がるように思えました。西条市がZENの輪で一つになればと期待しつつ、善意を形にする男、鈴木直之さんをこれからも応援しています!

# 楽しい農と 美味しい食を 農家さんと届ける

## 野口 あすか 2019.3 着任

西条市東予地区出身。大学進学と同時に県外へ。卒業後、建築業や奈良県でのまちづくりに携わり、2018年に出産・子育てを経て、子どものためにも地元の美味しい野菜や果物に関われる当農業部門のプロジェクトへ応募、西条市へUターン。

自分が母親になったことと父の病の発覚がきっかけで、高校卒業以来、一時的な帰省はすれど長く離れていたふるさと西条市に住みたいという気持ちが湧いてきました。これまで住みたいところに行き、やりたいようにやってきましたが、食べ物が美味しく、山と海が近く、のんびり温暖な愛媛で暮らすことがとても素敵に思えてきたんです。

西条市でできる果物と野菜はと

ても美味しく、とても種類が多いです。これらの素材を使ったジュース屋さんが私の事業。私の理念に共感していただいた地元の農家さんから材料を仕入れ、移動式のキッチンカーで、旬の野菜や果物を使ったランチとともに楽しめる「体が喜ぶ美味しいジュース」の調理と販売を行います。メニューはお客様の体調や体質に合わせて選べるように作っていきます。

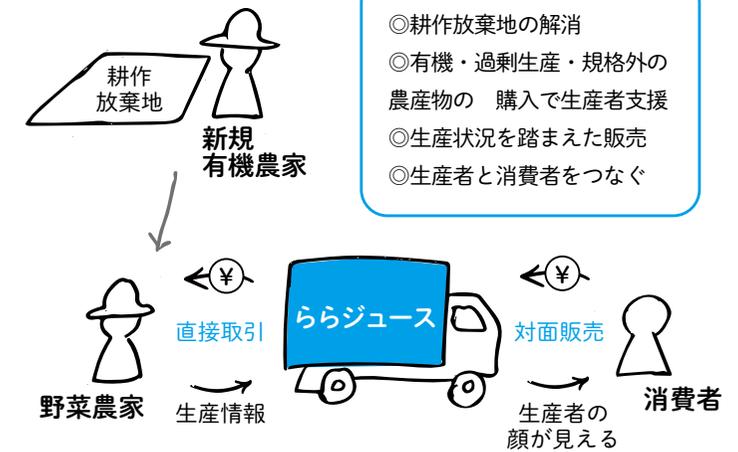
お客様が日常的に楽しめるよう

に、キッチンカーは西条市内の各地に移動しながら営業したいです。軽トラの上に自作の小屋を載せたオリジナルな車体なので、イベントなどで見かけたらぜひ声をかけてください。

また、子育て中に起業した自分だからこそ、子どもと楽しみながら生きる形を作りたいと結成した「丹原自然の学び舎」での活動もしています。農園など「自然の中で子どもと遊ぶ」がコン



(左上) 農家さん達と打ち合わせ (右上) 軽トラを活用したオリジナルのキッチンカー (右下) ポジティブなお母さんたちと活動する「丹原自然の学び舎」



野菜農家

直接取引  
生産情報



対面販売  
生産者の顔が見える

消費者

- ◎耕作放棄地の解消
- ◎有機・過剰生産・規格外の農産物の購入で生産者支援
- ◎生産状況を踏まえた販売
- ◎生産者と消費者をつなぐ

## 応援者コメント

輝り果樹園  
金光史さん



「楽しいことやりましたね」が口癖の、のぐつちゃん！そのキラキラした笑顔からは農業や健康を考えた新たな切り口のジュースを作る希望と喜びが溢れているよ！西条の自然や食と一緒に楽しんで作り上げていこう！

セプトですが、大人が楽しむことも大事にしています。

起業2年目となる今年は、まずキッチンカー事業を軌道に乗せることが目標。少人数のアウトドアや健康、食育関係のイベントとコラボもしたいですね。西条市の農業に惚れ込んでいるので、農家の人たちとタッグを組み「楽しい農」「美味しい食」を届けるポジティブな発信を、様々な形で実践していきます。

全国約半数の自治体が消滅可能性都市といわれる今、僕はこれまで政治やITの分野で活動してきた、「地方が生き残るためには今までとやり方を変える必要がある」と課題意識を持っていました。特に重要なのがインターネットを使って直接海外と繋がることと考え、「インターネット

とリアルとの融合」、「地方と世界の拡張」を自分のテーマとしています。近日中に、一般社団法人 Loglo Platform (呼称ローグロ) を設立予定。地方 (Local) と世界 (Global) をつなぎ、新たなビジネス環境の構築をビジョンに掲げるもので、今後自分の活動の核となります。

動します。特に飲食・映像・教育を一気に拡大予定で、1年間の売上は、当法人単体での1億円が現実味を帯びてきました。

僕自身、海外ビジネス経験は特になく、英語も日常会話レベルでした。それでも年の半分は海外で現地の方とコミュニケーションを取りながら働き、生活ができています。こんなスタンスがもっと広まっていくことが、西条市のような人口10万人規模の地方が今後生き残る道だと考えます。発展著しい新興国と個人レベルで連携ができる、このような環境を浸透させていきたいですね。西条など地域の皆さんとともに、情報技術を活用した新たなプラットフォームの構築をさらに進めることで、各国と地方を繋げ、ビジネスを加速させていきます。

現在、ベトナム中部の観光・ビジネスの主要都市・ダナンを拠点に「自宅にいながら国境を超える」をコンセプトにしたオンラインカフェを、2019年夏からのインターン大学生と、日本在住歴10年で経営者でもあるベトナム人女性と運営しています(右ページ写真)。事業内容は、事業開発、観光・文化交流、人材開発など多岐に渡ります。

2020年度からは、年齢も背景も様々な優秀なメンバーが揃い、それぞれの得意分野で自由に活

# 境界はない。 地方と世界を繋ぎ、 ビジネスの可能性を拡張



## 2019年度の主な成果

- 1 日越産業文化交流拠点「XIU Viet-Nhat」オープン
- 2 ベトナムのレストラン監修(西条の飲食店による)
- 3 ソラヤマいしづちベトナム人インバウンド戦略アドバイザー
- 4 大学生長期インターン受入
- 5 大学生スタディツアーの運営(2週間のベトナム研修合宿)
- 6 イベント「紺屋町BAR」をベトナムをテーマにプロデュース
- 7 西条在住ベトナム人との交流イベント実施(浴衣 de 花火、もちつき、料理教室)
- 8 台湾との関係強化(次の展開へ)

事業一覧  
[https://linktr.ee/shinopi\\_viva](https://linktr.ee/shinopi_viva)



(右上) 西条・紺屋町商店街のイベントにベトナムをテーマに参加 (左下) 西条市とニャチャンの事業者を繋ぐ (右下) 人材育成技能実習生派遣ダナンセンターと提携



## 応援者コメント



食旬福  
福田 晋一郎さん

西条市内で飲食店を経営しています。今まで、インターネットや海外事業など、興味はあってもどうすればいいかわからなかったものが、しのびーの作るプラットフォームで手が届くような気がするようになりました。まずは、食の分野から西条市とベトナムの架け橋となれればと思います。

## 篠原 学 2019.2 着任

新居浜市出身。東京で衆議院議員秘書を経験後ITベンチャー企業で開発系の事業を主に担当。日本の課題解決として、情報技術を使って地方と世界をつなぐイメージを抱き、NCL西条の「HUBベトナム」事業への参画を決意。

# 紺屋町 dein

by Next Commons Lab 西条

コーディネーター対談

安形 真  
Makoto Agata



高田 裕明  
Hiroaki Takata

## チャレンジが あふれる西条へ

これらプロジェクト全体の  
運営を行うコーディネーターの  
安形と高田が、これまでの成果と  
今後の展望、西条市や地域の皆さん  
へのメッセージを語ります。

### 1年目は起業家採用、 2年目からは彼らの支援

高田：コーディネーターとして、2018年度は起業家の採用活動が中心でした。採用基準は、事業内容やこれまでの経験など本人の体験を元に。ただ、最終的には「西条市でこの事業が取り組みたい」という熱量を最重視しました。苦労ばかりで大変だったのですが、起業家の採用は満足のいく結果になりました。2019年度からの起業家支援に関しては初めてのことが多く、とても苦労しています。起業家が気持ちよく活動できるように心がけながら、目標を達成できるようにサポートしています。

安形：僕らの仕事を簡単に言うと人や情報をデザインして、事業を加速させるサポート。例えば起業家と地域の方とを会わせたりする時は、お互いの相性・組んで予想される効果などを想定する。トラブル対応もあるし、将棋で次の一手を考えることと似てますね。

### 2年後、全員で1億の売上。 絶対やれると信じてます

安形：目標は、2021年度の一年間で、僕ら13人で売上1億円を作ること。平均すると1人800万円ぐらいで、地方で事業をしてごはんが食べていける金額の目安として。達成できると真剣に思っています。

高田：高い目標だねと言われることも多いです。ただ、僕も達成できると信じています。それだけ、起業家には可能性があり。僕も含め、任期後も西条市で活動を続けようと思っています。

安形：僕らは国の「地域おこし協力隊」の制度こそ利用していますが、一般的な「協力隊」のスピード感とは全然違う。理由の1つは、協力隊って月16万円の収入が確保され安定してる。つまり、ハングリーさが醸成されにくい上に行政職員の身分があってなかなか起業活動がしにくいケースが多い。一方、西条のメンバーは、そもそもリスク背負って起業するつもりで、挑戦の場所を探していたら、たまたま西条市を見つけて来たという感じ。のんびり田舎暮らしを夢見て移住って人達じゃないんで

すよね。

### 安形は絶対逃げないリーダー 高田は人をつなぐ行動派

高田：僕と安形さんの性格は結構異なってます。だから、二人の役割の違いを活かして活動しています。その結果、比較的うまくいっているような気がします。採用の時の役割がわかりやすいかと。僕が応募者とコミュニケーションを取り、場を作っていく。安形さんはどっしり構えて、ズバッと芯を突くような質問をする。そのおかげでブレずに採用できました。

僕から見た安形さんの強みは、とにかく影響力があるってこと。よそ者が地域で結果を出すには影響力が必要。安形さんはガンガン地域に溶け込んでいき、しっかりと地域の方とのコミュニケーションも取っている。すごいなーって。2019年の夏のイベント「ふりむけば壬生川」でお化け屋敷を運営したんですが、大勢のボランティアメンバーを巻き込んで成功に導いてました。彼らとの信頼関係もできていました。

あと、決めたことは最後まで逃げ出さない。本当に逃げない。

目標は必ず達成したい。(安形)



安形 真 2018.3 着任

愛知県新城市出身。大学卒業後名古屋で就職。その後飲食業界を経て地元へ帰郷し、地域と農業の活性化を目的に起業。有機農業や農家レストランを運営しつつ行っていた起業支援を本格的に行うため、西条市へ妻と愛犬と移住。

その結果、何度か喧嘩したこと  
も今では良い思い出です。

**安形**：高田さんはフットワークが  
軽く、関係構築力がとてもあるん  
です。市外・県外のイベントな  
どに出向き、ヒョイヒョイっと外  
部の人たちと関係を作ってこれ  
ちゃう。その結果、ここ「紺屋町  
dein」という名前も広く認知さ  
れてきてる。とりあえずやってみ  
ようって軽やかにチャレンジでき  
るところが本当にすごく、「僕も  
腰が重くなったな」と思われる  
程ですよ(笑)。

**高田**：安形さんにはリーダーとし  
て暴れていただきたいです。未  
開の地を開拓する力もすごいの  
で。僕は、その後をしっかり整備  
するのが好きなタイプかもしれな  
い。場作りも好きなので、紺屋町  
deinの運営も担当しています。  
こちら面白い経歴を持った会員  
様が増えてきました。イベントの  
企画をしたり、会員様同士の強み

を生かしたマッチングなどをした  
り、場が活発にしていくためのチャ  
レンジをしています。

### 西条市を挑戦者の聖地に。 応援者や支援者も必要

**安形**：最終的なゴールは、西条市  
を挑戦者の聖地にすることです。  
地方で何か挑戦したいと思っ  
ている人たちに第一候補として選  
ばれるような街に。そのために僕  
たちの成功は必須。そもそも、な  
ぜ挑戦者が必要かという、人口  
減少、情報技術の発達、自然災害、  
感染症など、未来が予測しづら  
くなった社会の中で、地方が持続  
可能性を高めていくためには、挑  
戦し変化し続けたいいけないん  
ですよ。移住起業家の僕たちだ  
けでなく、子どもから年輩の方ま  
で、挑戦がもっとハードル低く当  
たり前になれば、西条市が自然も  
暮らしも豊かであり続けられる  
んじゃないか。なにより僕自身、

そういう街に住みたい。挑戦者が  
周りにいて、いろんな変化を楽し  
んで人生を終えられたら、と常々  
思っています。

**高田**：僕は起業家を支援しなが  
ら、紺屋町deinの場作りにも力  
を入れていきたいです。現在、何  
かにチャレンジする人が集まって  
きています。僕自身、「やりたい」  
と想っていることを「やった」と  
体験に変えていくことの大事さを  
知ってます。勇気を持ってチャレ  
ンジする人と、それを応援する人  
が集まる場所を紺屋町deinは目  
指しています。西条市内にチャレ  
ンジャーが増えるきっかけ作り  
を、何かサポートしていけたら最  
高ですね。

**安形**：挑戦者の生態系を創ろう、  
というのはよく言ってるんです  
けど、挑戦者だけでは成り立た  
ない。応援・支援する人がやっぱ  
り必要で、それって場がないと育  
たないんですよ。だから紺屋町dein

みたいな場って重要なんです。

### 挑戦というだんじりを みんなで担いでいく

**高田**：西条市のまちな風土ですが、  
まずやらせてくれるから、とても  
ありがたいです。他のエリアでは  
何かしようとする最初から反対  
されるところもあるので。挑戦を  
受け入れる風土は、過去の先輩た  
ちがチャレンジをし続けてきてく  
れたおかげですね。「やってみ  
んかい」って背中を押し、「何しよ  
ん？」と覗きに来て面白がってく  
れる人も多くて。一方「どうせ3  
年終わって失敗してると帰るん  
でしょ」と言われたことも。だから  
こそ、チャレンジをし、残り続け  
る努力をします。約束守って「あ  
いつら来たからうまくいったし  
な」って言われたいですよね。

**安形**：そうだね。田舎って一般  
的に保守的だとよく言われるけ  
ど、西条市の人達って特殊。関わ

りやすく情に深い。きっとお祭  
りの存在が大きいと思います。決  
めたことをやる、約束を守る。そ  
んな市民性は、ちゃんと挑戦して  
いきたい人にとってはすごくやり  
やすい。当初は「お前らなんぼの  
もんや」って姿勢の方もいたけど、  
挑戦への覚悟を伝えると、認めて  
すぐ応援してくれるようになった  
こともあり、嬉しかった。認め  
ると、とことんなですよ。良い  
街だなあと。祭りもそうですが、  
外から見るとより、一緒にやった  
ほうがおもしろいですよね。チャ  
レンジもそうで、中に入って、挑  
戦というだんじりを一緒に昇って  
いければ、おもしろい。

**高田**：いま、すごい良い事言っ  
たね(笑)。僕らも西条祭りに参加さ  
せてもらってるけど、ほんと、や  
る人が楽しんでなんぼ。チャレ  
ンジのハードルを下げ、小さい  
チャレンジをみんなで応援する。  
そんな関係性を生み出したい。ま

ずは、紺屋町deinに足を運んで  
もらえる嬉しいです。紺屋町商  
店街に来たついでに寄ったり、イ  
ベントへの参加也大歓迎です。遠  
方の方は、オンライン会員枠もあ  
ります。実際に石川県の会員さん  
もいます。

**安形**：引き寄せの法則じゃないけ  
ど、やるって言ったら、いろんな  
ものが集まってくるんですよ、  
不思議なことに。その奇跡が自分  
の人生を豊かにしてくれる。偉  
そうに言うつもりはないけど、こ  
の場の空気感を感じて一人でも多  
くの方が自分なりの挑戦をして  
いってくれば嬉しいなあ。

**高田**：一回来てくれたらありが  
たいよね。あ、紺屋町deinに来る  
ときは、僕らまで事前の連絡をく  
ださい。管理者不在のケースがあ  
り中に入れないこともあります。  
また、イベントも月に何度かやっ  
ております。ぜひ、お気軽に足を  
運んでください。

まずは、紺屋町<sup>デイン</sup>deinに一度遊びに来てください。(高田)

### 高田 裕明 2018.3 着任

東京都小平市出身。オフィス用品メーカーの営業、PR系  
の会社起業、人材系企業へ再就職、世界一周旅行、海外起  
業を経て、就職や採用支援の事業を行うフリーランスに。  
新たな活躍の場を地方に求め、妻と娘と西条市に移住。



### 紺屋町 dein

西条市内初のコワーキングスペース（仕事や打  
ち合わせなどができる共同オフィス）。西条市  
街地の紺屋町商店街内に立地。会員は約40名。  
<https://www.facebook.com/konyamachidein/>  
電話：0897-39-9214（平日10～18時）  
Email:konyamachidein@gmail.com

## Cheering Voices

地域の仲間や先輩経営者など、  
私たちに寄せられた  
応援の声を紹介します。



アールスタジオ カメラマン  
一色 一成さん

刺激的な存在！  
悔しさを僕も力に

NCL 西条フロントマンの安形真。彼が来てから街が面白いんだ！  
出会いは2018年の春だったかな。僕が住む街西条に起業家をひっさげて来ると耳に入って、彼と出会うまでに時間はかからなかった。

連絡先を聞いて、今から会いたいとアポ取ったら0.5秒でOKと！  
対応が早くて悔しかったから、そこから15分で会いに行ったよ。これが彼との出会い。

彼の影響なのか、このNCL 西条は動きがとにかく早いんだ！  
何かを変えたい。変わりたい。変化を感じたい。  
そんな時、僕は彼らの拠点 紺屋町deinを利用する。  
彼らは常にチャレンジする。  
そんな彼らを見てると  
なんだか悔しいんだ！

そんな刺激的なNCL 西条を、僕は応援する。



住友重機械イオンテクノロジー(株)  
廣瀬 恭文さん

NCL 西条様は大切な  
事業パートナー

皆さんの存在は以前より知っていましたが、関係が急接近したのは「DAISプロジェクト」という当社が发起人として開催する、地方創生型次世代リーダー研修を通じて。この研修に、僕たちが事業を行う西条エリアのステークホルダー（各種関係者）との連携は不可欠だったので、まずNCL 西条様にご相談したんです。

我々のように地方で事業を行う製造業にとって、人材を呼び込むことが事業課題。そのためには企業単独の努力だけでは不十分で、事業や、生活圏である西条エリアの魅力をもっともっと上げて、伝えることが大事だと思います。

皆さんは社会的な観点だけでなくビジネスの観点も持っていて、我々との共通言語も多いありがたい存在。学びになる点も数多くあり、今後もよき事業パートナーであり続けていただきたいと考えています。



かんこめ  
菅 圭一郎さん

人間らしく、自由に、楽しく。  
もっと西条にのめり込んで

皆さんを見てると、昔を思い出します。「あれしよー、こんなあったらいいよね」と仲間と話していた頃を。

最初にNCLの話聞いた時は、鍛えられたプロがやってきて決まったことを西条で進めていくんだろうなと思ってました。ただ、メンバーに近づいて直接コミュニケーションを取っていくと、ある人は悩みを持ち、ある人は責任感のために寝れない日もあるだろうなと思うほどで、近づけば近づくほど、人間味を感じるように。

彼らは、内面にすごいマグマのようなエネルギーを持っていますが、上から蓋をされているように感じる時もあります。

今後はもっと西条にのめり込んで、「一番楽しんでものは私だ」と言える人がどんどん増えることを期待。自由さを忘れずに今後も頑張ってもらいたいです。



山内石油(株)  
山内 章正さん

西条市の元気の源  
ここにあり、NCL 西条！

西条市も例に漏れず、少子高齢化に伴う人口減少、過疎化が進んでいるが、それを跳ね除ける力を持つNCL 西条の頼もしいメンバーによる西条の地域興しが佳境に入ろうとしている。

2年前に3人で始まったこのプロジェクトが今や10人を擁する大きなムーブメントになってきた。大変ありがたいことである。

地元で長く住む地元市民は地域の持つ良さやそのアピールの仕方をあまり知らない。

全国から西条市に惚れて集まった達人たちが、西条市をより元気にする、より多くの人の集まる街にする壮大な企画が進んでいる。彼らの活躍を大いに期待し、我々地域住民も共に関わって、西条をもっと元気な街にしてゆきませんか？



リパティアー 十亀 かね代さん  
うちだ美容室 秦 千草子さん

来てくれてありがとう。  
挑戦が街を変えています

2年前に皆さんをお迎えし、交流会で色々な方と出逢いイベント活動にできる限り参加してまいりました。不思議なご縁もあり、絆の大切さを痛感しております。西条市が今年の「住みたい田舎ランキング」若者部門で1位を獲得したのも、皆さんの発信力の賜物だと思います。外から西条を見て、私達が気付いてない地元の良さを教えてくださいました。

私達は、秋川雅史さんのヒット曲にちなんで「千の風実行委員会」で14年間活動してきました。私たちはそれぞれ洋服店、美容院を営んでいますが、本業とともに、彼らの挑戦はこういったまちづくり活動の励みにもなっています。

これから、西条に生まれ育った若者が、西条に帰りたいと思える街となることを願っております。皆さんの今後の活躍にワクワク・ドキドキが止まりません♡

終わりに

僕たちの報告書を手に取ってください、ありがとうございます。

2020年度は、僕たちにとってとても重要な年。西条の起業家たちがよりスピード感をもて事業を進められるよう、Next Commons Labの本部から僕の会社（一般社団法人リズカール）が事業を引き継ぎ独立します。

僕が移住先を選ぶとき、NCLが掲げた「人間らしいも源泉としての産業創造」というテーマにとても共感して西条にきました。豊かな自然と産業基盤と、人間らしい豊かな暮らしがある。そこをベースに仕事を作る。このテーマにはずと取り組んでいます。

このように挑戦する活動を、「SAIJO WAY」と名付けました。西条に挑戦者を、SAIJO WAYをやっていく人を1人でも増やし、もっと挑戦者や応援者が活躍する未来を創りたいと考えています。

一般社団法人リズカール 代表理事 安形真

チャレンジャー

挑戦者の生態系をつくる。

一般社団法人リズカール

〒793-0030 愛媛県西条市大町 1699-3 エストソレイユ 紺屋町 1F

TEL : 0897-39-9214 代表 : 安形真

事業内容 : 起業家支援事業、ワーキングスペース運営事業、アウトドア事業

Website : <https://risicare.or.jp/>

